

こんにちは。嘱託員の村上です。

先日、仙台市にある<sup>ばんすいそうどう</sup>晩翠草堂を見学してきました。晩翠草堂は「荒城の月」の作詞者として知られる<sup>どいばんすい</sup>土井晩翠が晩年を過ごした邸宅で、関連資料が展示されています。

土井は明治4年（1871）仙台市に生まれ、明治30年に東京帝国大学を卒業後、明治33年に第二高等学校（東北大学の前身）教授となりました（専門は英文学）。一方、学生時代から詩を発表しており、明治32年に刊行した第一詩集『<sup>てんちうじょう</sup>天地有情』が高い評価を受け、詩人としても有名になりました。

さて、土井は「荒城の月」のほか、全国各地の校歌の作詞をしたことでも知られています。作詞した校歌はなんと200曲を超えるそうですが、その中に青森市内の学校に関係するものが2曲あります。

ひとつは明治42年に制定された青森県師範学校（現弘前大学教育学部）の校歌です。作曲者は青森県師範学校の卒業生で土井と親交があった<sup>くすみおんさぶろう</sup>楠美恩三郎です。

その後、青森県師範学校（昭和18年〈1943〉から官立青森師範学校）は昭和24年に発足した弘前大学教育学部へと移行し、土井が作詞した校歌は使われなくなりました。しかし、青森県師範学校同窓会の会歌として歌い継がれ、平成18年（2006）に行われた弘前大学教育学部創立130周年記念式典でも歌われたのだそうです。また、昭和20年まで校舎があった場所（花園二丁目）と弘前大学の学内に校歌の歌詞が刻まれた記念碑が建立されています。



青森県師範学校校歌歌碑  
（弘前大学内「教育学部創立130周年記念庭園“育ての庭”」）

もうひとつは青森商業学校（現青森商業高校）の校歌で、大正6年（1917）に創立10周年を記念して制定され、現在まで歌い継がれています。『青商百年史』によれば、校長の佐藤善次郎が仙台商業学校教諭の那須省吾を介して作詞を依頼したといわれています。

校歌が作られた頃は校舎が合浦公園のそば（カクヒログループスタジアム〈青森市民体育館〉と青森市民室内プールの位置）にあったことから、歌詞には「合浦の公園浪打つ岸に 商業学校基を置きぬ」という一節があり、市民体育館裏に建立された「青森県立商業学校跡地之碑」にもこの一節が刻まれています。



青森県立商業学校跡地之碑  
（青森市民体育館）

ちなみに、土井という名字の読み方はもともと「つちい」でしたが、「どい」と間違えられることが多く、昭和初期に「どい」と改めたのだそうです。つまり、青森県師範学校と青森商業学校の校歌を作詞した時には「つちい」と名乗っていたのですね。

※今回の内容は、土井晩翠顕彰会編『土井晩翠—栄光とその生涯』、『弘前大学学報 第37号』などを参考にしました。